

No.3165

第3482回例会
平成28年5月18日

DISTRICT 2500

OBHIRO ROTARY CLUB

方針 奉仕を楽しみ、実践しよう

会長 讃岐 武史

2015-16年度国際ロータリーのテーマ 世界へのプレゼントになろう

4月20日例会 会員総数93名(内免除会員4名)

出席
報告

出席者数 56名

欠席者19名
(出欠1名)

メークアップ 18名

(名)

■会長報告

讃岐 武史 会長



皆さんこんにちは。今月の『ロータリーの友』は既にお読みになったでしょうか？佐藤真康エレクトは地区のロータリーの友、代表委員をされていたのでご存知だと思いますが、東京のロータリーの友委員会には東京築地RCの会員である二神さんと言う大変厳格な編集長がおりまして、5月号で二神編集長がロータリーの女性会員について投稿されております。それによれば女性会員は『あった方がよい』でなく『なくてはならないもの』とし、女性を排除しているクラブはロータリー全体にダメージを与えていると厳しく記述しています。全世界では会員全体の20%が女性会員で、ガバナーの約10%が女性だそうですが、日本では5%、今年度、来年度の女性ガバナーはゼロとの事です。今月のガバナー月信で見ますと、当クラブは93名の会員中6名が女性ですので、約6.5%となりますが、これだけで見ると日本のロータリーの平均値よりは上にありますが、今後もっと女性会長を輩出し、2500地区初の女性ガバナーを送り出して二神編集長を喜ばせれば良いと個人的に思います。

さて明日から当クラブの姉妹クラブである京都東RCの60周年に小沢幹事、合田直前会長、奥原次年度ガバナー補佐他総勢9名の会員で参加して来ます。来週その様子を報告させていただきます。

今日の例会プログラムは今年度当クラブのロータリー財団委員長である川上義史会員より、ポリオのお話を頂きます。どうぞ宜しくお願いします。

■プログラム

(ロータリー財団委員会)

「ロータリー財団のポリオに対する取り組みに関して」

川上 義史 ロータリー財団委員長

ロータリー財団のポリオに
対する取り組みに関して常任ロータリー 財団委員会
川上義史ポリオ: Acute Poliomyelitis: 急性灰白髄炎
脊髄性小児麻痺いわゆる小児麻痺

ヒト-ヒト感染を起こすウイルス感染症

感染経路: 経口感染して腸管内で増殖し便に排泄

日本では1960年代初頭に大流行して2000年に根絶宣言

ロータリー財団

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通して、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。

より良い地域づくりのための活動やグローバルなイニシアチブを資金面で支えているのが、ロータリー財団です。クラブや地区に補助金を提供しているほか、ポリオの根絶や平和の推進といったグローバルなキャンペーンを展開しています。こうした活動や補助金を実施させているのが、皆さまからのロータリー財団へのご寄付です。

・財団プログラムの変遷

1947年
財団初のプログラム「Fellowships for Advance Study (高等教育のためのフェロウシップ)」を開始。このプログラムは後に「国際職業奨励」(奨励)として知られるようになる。1965-1966年
財団が新たに「研究グループ交換 (GSE)」[Awards for Technical Training (技術研修のための補助金)] [Grants for Activities in Keeping with the Objective of The Rotary Foundation (ロータリー財団の目的を達成するための補助金、後に「メンタリング・グラント」)] の3つのプログラムを開始。1978年
「麻痺、根絶宣言、人間性尊重 (3-H) 補助金プログラム」を開始。3-H補助金のプロジェクト第一号として、フィリピンの600万人の子どものためにポリオの予防接種を実施。1985年
全世界でポリオの根絶をめざす「ポリオプラス・プログラム」を設け1997-1998年
初めての年次フォーラムが開催され、これが「ロータリー年次フォーラム」の前身となる。2011年
世界初のロータリーグローバル・イニシアチブとして、新しい補助金モデル「地区補助金、グローバル補助金、パッケージ・グラント」を導入。

1977年に26万5000セントの寄付から始まったロータリー財団は、10億ドル以上の寄付を受けるほどの大きな財団に成長しました。財団はこうして多くの方々に支えられ、人道的分野や教育面での支援活動を行っています。

④「ポリオ2005」の誕生

1982年2月のR.I.理事会で、「ロータリークラブおよび地区が、保健、教育、経済、放火および人間関係プログラム、世界社会福祉計画、社会福祉活動を通して、世界中の子どもたちに伝染病に対する免疫接種を、適切な国際的、全国的、あるいは各地の保健機関と協力のもとに継続させることを奨励し、西暦2005年に国際ロータリーの100周年を迎えるまでに、全世界の児童をポリオから守る免疫接種を完了させることを目標とする」目標を掲げた。これを達成するために、1984-1985年度、カルロス・カンセコR.I.会長(当時)は、この目標達成の方法をはかる「ポリオ2005委員会」を任命。1984年11月の理事会で同委員会からのポリオに関する報告を受理、全世界的規模でのR.I.のポリオ撲滅活動が開始された。

1985年2月、ロータリー創設80周年に当たって、R.I.は、ポリオ・プラス計画を発表しました。プラスとは、しかし、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の5つの病気を指します。ポリオだけではなく、これらの病気も免疫接種を実施することになり、ポリオ・プラス計画と改称されたのです。

人類のポリオとの戦い小史.2

- 1967年: WHO、天然痘根絶計画発表
- 1974年: WHO、EPI計画発表
- 1979年: R.I.、フィリピンにて3Hプログラム
- 1980年: WHO、天然痘根絶宣言
- 1985年: R.I.ポリオプラス
- 1988年: WHO、2000年までに患者0人目標宣言
- 1994年: 南北アメリカ根絶宣言
- 2000年: 西太平洋地区根絶宣言
- 2002年: ヨーロッパ根絶宣言

EPI: Expanded Programme Immunization

世界ポリオ撲滅推進計画

(GPEI: Global Polio Eradication Initiative)

- 国際ロータリー(Rotary International)
- 世界保健機構(WHO)
- ユニセフ(unicef)
- 米国疾病対策センター(CDC)
- ビル・アンド・メリング・グレイツ財団

ロータリー創設時から変わらない3つの特徴

- 国際性
- 粘り強さ
- 奉仕へのコミットメント

コミットメント: 関与、参加、約束、公約、制約

奉仕へのコミットメント

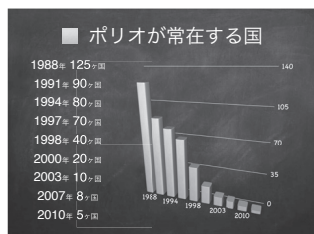
● 1979年、ロータリーは、フィリピンで600万人の子どもたちにポリオの予防接種を行うプロジェクトを開始し、これが世界的なポリオ撲滅活動のきっかけとなりました。

野生ポリオウイルスが存在する国(ポリオ常在国)の数は、1988年の125カ国から、2012年には3カ国にまで減少しました。

これはまさに、ロータリーによる奉仕へのコミットメントを裏付けるものです。



国名	2006年根絶宣言された国	2007年根絶宣言された国	2008年根絶宣言された国
アフガニスタン	5	1	13
インドネシア	5	7	23
ナイジェリア	127	68	201
パキスタン	238	44	130
ロシア	5	5	1
ウズベキスタン	1	1	1
ベトナム	2	12	48
タイ	1	1	1
カンボジア	2	5	1
ラオス	2	5	1
ミャンマー	2	5	1
カンボジア	2	5	1
ミャンマー	2	5	1
カンボジア	2	5	1



ロータリージャパンの取り組み

●日本のロータリーとしては、1994年に第1回ロータリー賞を受賞し、1995年、第2580地区（福井・滋賀・京都・奈良）はWCS（世界社会奉仕）の活動の一環として、アフガニスタンのワクチン接種を行いました。この活動はロータリー財団から30万米ドル、地区からは10万米ドルを拠出しています。同地区では、この活動を皮切りに、途上国々々のためのワクチン接種と、1996年・モンゴルで、1997年・スリランカで、1998年・フランスで、1999年・ベトナムで、2000年・中国/広東省/広州市で、2001年・パキスタンで、2002年・ミャンマーで、2003年・カンボジアで、2004年・ラオスで、今年2005年は「アフガニスタン」で、11年間にわたって活動が続けられてきました。その後、第2580地区、第2580地区は日本各地の多くの地区や、また、ロータリアンがポリオワクチン接種のために多くの働きかけをしています。これらの中には、ロータリー財団（ロータリークラブ会費）が、参加した例もあります。

ナイジェリアでは、2003年頃に一部の宗教指導者が、ポリオワクチンが不妊の原因になっていると主張しており、それが原因で、子供にポリオワクチンを接種せよという両派がいた。その結果年間平均患者症数が激増し、この逆流がきっかけで、この取り組みを刷新する結果となった。

2014年7月24日を最後に発症していない。このまま2年間発症がなければポリオフリーと認定。

パキスタンでは、イスラム教勢力が、ポリオワクチン接種活動に従事する人々を殺害するといった妨害活動が続いていました。なぜなら、2011年に国際原子力組織（IAEA）の指導者、ウサマ・ビンラディン容疑者が米軍の空襲によって殺害されたときに、米軍が予防接種と偽って機密調査を行い、ビンラディン容疑者の居場所を特定したとされているからです。

●『奉仕の一世記 国際ロータリー物語』によれば、経口ポリオ・ワクチンの生みの親である故アル・バート・セービン博士はかつてロータリアンに、「1985年にポリオ・プラスを開始して以来、ロータリー財団100周年の2005年にはポリオ患者が800万人に増加しており、おそらくその期間中に80万人がポリオで死にいたことであろう」と述べています。ロータリアンが取り組んだポリオ撲滅活動によって、ポリオの症例数は大幅に減少しました。でも、ロータリーが掲げた目標が達成されたわけではありません。100%ポリオが撲滅したという夢を遂げる日まで、ロータリアンとポリオの闘いは終わることはありません。『約束を守ろう、ポリオをなくそう』

ロータリージャパンの取り組み

●RIの本格的取り組みに先駆けた日本の活動

1981年、第2580地区（現、第2580地区）の東京府ロータリークラブ（RC）は、「3-Hプログラム」の「イデオロギカルプロジェクト」に参加した経験がありました。各クラブでは、クラブ設立15周年事業として1982～83年度、南インドにポリオワクチンを送り、地元のロータリアンと協力して、子どもたちをポリオから救うことを計画したのです。

この計画は、第2580地区と第2750地区（現、第2750地区）の賛同を得て、2つの地区の世界社会奉仕（WCS）プロジェクトへと発展しました。ロータリー財団からは「すばらしい計画であり、感謝する」と評価されています。

●目標を上回る資金を達成

日本国内では、資金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、日本ポリオ・プラス委員会により、5年計画のポリオ・プラスの資金キャンペーンが始まりました。各クラブや地区での積極的な取り組みのおかげで、このキャンペーンが展開されていた1986年7月には、目標額を大幅に超えて、目標額をはるかに超える149億8000万の寄付金を集めることができました。

R Iでは、1989年6月までの3年間でキャンペーン期間としていましたが、日本では5年計画を立てました。結果的には、5年と見込んでしっかりとスケジュールを組んでいた日本のキャンペーン活動は成功で、非常に高い実績を上げています。R Iでは、1988～89年度までの3年間で米貨2億4,700万ドルを集めました。これは目標額の2倍に相当します。

活動の結果

2016年のポリオ常在国は2カ国

アフガニスタン
パキスタン
ナイジェリア

残った2ヶ国の状況

●アフガニスタン：情勢が不安定
●パキスタン：情勢が不安定

国境を接した隣国への蔓延が懸念

そんな過酷な状況にありながら、パキスタンでの2015年のポリオ症例数は2014年の70%に減少している。

②帯広北・帯広東・音更、3RC合同植樹祭開催のご案内

日 時 5月22日(日)午前10時

場 所 北海道立十勝エコロジーパーク

※尚、帯広北RC、5月20日(金)の繰下げ例会と致します。
帯広東RC、5月24日(火)の繰上げ例会と致します。

③帯広西RC、夜間例会開催のご案内

日 時 5月26日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

④帯広北RC、移動例会開催のご案内

日 時 5月27日(金)午前11時

場 所 帯広市学校給食センター

■ニコニコ献金 (親睦活動委員会)

河村 知明 会員
われわれのテーブル見事100%出席です。

川上 義史 会員
本日のプログラムを担当させていただきます。よろしくお願いします。

■お誕生日祝い

村松 一樹 会員 工藤 稔 会員

■出席表彰

和田 賢二 会員 (23回目) 合田 倫佳 会員 (13回目)
渡辺喜代美 会員 (11回目) 小水 基弘 会員 (4回目)



■出席報告 (出席委員会)

5/18 例会の報告
会員総数92名 内免除会員4名 出席者数59名

4/20 例会の報告
メイクアップを含む出席者数74名 出席率80.4%

■次週のプログラム予定

5月25日(水)「会員卓話」 (プログラム委員会)

■会務報告 小沢 昌博 幹事

①帯広RC、次年度第2回クラブ協議会開催のご案内

日 時 5月25日(水)午後6時30分集合(7時より開会)

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

会 費 2,100円

出席義務者 次年度理事・役員・委員長・新会員(3年未満)



例会日 / 水曜日 12:30 ~ 13:30 例会会場 / ホテル日航ノースランド帯広 TEL0155-24-1234

●創立 / 昭和 10 年 3 月 15 日 ●認証番号 / 3820 ●戦後再開 / 昭和 25 年 12 月 19 日

●事務局 / 帯広市西 3 条南 9 丁目 経済センタービル 4F TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発行 / クラブ広報

●委員長 / 小林 義幸・副委員長 / 工藤 稔

委 員 / 高橋 猛文・和田 賢二・高原 淳・神山恵美子・渡部 聡・加藤 健吾

●ホームページアドレス / <http://www.obihiro-rc.jp>